

# トイレ改修を優先した施設整備方針

## 取組概要

### 【学校施設整備の方針】

- 児童生徒・教職員にとって安全で快適な学校施設を整備（施設機能の底上げ）するとともに、学校施設の長寿命化を推進するため、既存の建物のライフサイクルを意識した、長期的な視点による効率的なマネジメントを実施。
- 効率的なマネジメントのため、今後「学校施設実態調査」を行い、施設の実態把握、データベース化を実施。その結果に基づき、①既存学校施設再生整備、②安全で快適な教育環境整備、③長寿命化やコスト平準化のための予防型保全手法の導入を実施。

### 【トイレ改修を推進するための整備計画】

- 施設全体の大規模な改修を『既存学校施設再生整備』として毎年計画的に実施する一方、学校トイレの改修をより速やかに進めていくため、トイレ改修やエレベータ設置等の個別重点課題対応の予算を別枠で確保し、『安全で快適な教育環境整備』として実施。平成20～22年度で34校のトイレ（1校あたり3～4箇所）を整備。

## 整備事例



▲児童参加のワークショップ（刈宿小学校）



▲児童のデザインによるトイレサイン（下作延小学校）



▲児童のデザインによる壁タイル・ブースのカラー（左・中：刈宿小学校、右：菅中学校）

## 学校施設の効率的マネジメント

施設の「実態把握」・「評価」・・・『学校施設実態調査事業』による「施設の実態把握」「データベース化」

整備計画の策定

①既存学校施設再生整備

②安全で快適な教育環境整備

③長寿命化やコスト平準化のための予防型保全手法の導入

トイレ改修やエレベータ設置等、特にニーズの高い個別の重点課題に優先的に対応するための改修事業

トイレ改修計画の推進  
(3～4箇所/校)

### ○「狭い・暗い」対策

- ・児童生徒によるデザイン（サイン、壁タイル、ブースの色彩など）
- ・児童生徒の憩いの場となるよう、ベンチや全身鏡を設置
- ・プライバシーを考慮し、個室の壁を天井まで設置
- ・環境に配慮し、ブースごとのLEDダウンライト、人感センサー付き照明、自動水栓の採用

### ○「臭い、汚い」対策

- ・床の清掃がしやすいように、受け部が低い（低リップ）壁掛け式小便器の採用
- ・汚垂（おだれ）石（汚れやおいの染み付きを防ぐために張る石）の設置

### ○改修後の学校の声・効果など

- ・ワークショップへの参加、子どものデザインの採用などにより、愛着を持って使用している。
- ・ていねいに使用するようになり、古いトイレも含め、よく掃除をするようになった。
- ・トイレ改修の効果が学校全体に波及し、学校全体がきれいになったと保護者からほめられる。
- ・改修前は、トイレが暗く、特に低学年児童がこわがっていたが、明るく使いやすくなった。
- ・節水の意識が生まれた。



▲プライバシーを考慮した個室間仕切り  
(普通中学校)



▲憩いの場となる手洗い、ベンチ周り（左：有馬小学校、右：下作延小学校）



▲改修後の和便器・洋便器（下作延小学校）



▲低リップ壁掛け式小便器と汚垂（おだれ）石のある男子トイレ  
<上は改修前>（有馬小学校）

# 簡易なトイレ環境の改善策

## 安価で簡易なトイレ改修の提案 (NPO法人日本トイレ研究所)

### 【取組概要】

- トイレを明るく安心して行ける空間に変える(簡易改修)と同時に、トイレを大切に使うことを伝える(出前事業)ことを目的に、「小学校のトイレびかびか計画」を展開。

### 【改修手法】

- 便器、トイレブース等の既存設備を可能な限り活用し、におい除去、明るい雰囲気作りを目指す簡易改修。改修経費は、1フロア 1箇所あたり150万円～200万円程度(男女各1便器の洋式化を含む)。
- 具体的には、既存床タイルの上からモルタルを敷き、レベル調整(段差解消含む)を行った上で、長尺シートを施工することで臭気対策を徹底。必要に応じ、トイレブースにシートフィルムを施工。

#### ※ 留意点

- ・ においの原因は、床タイルの目地以外にも考えられるため、改修・対策方法については、十分な検討が必要。
- ・ 「既存トイレブース内のスペースが狭い」、「小便器の間隔が狭い」などといった、既存トイレが有する平面的課題についての対策は、別途検討が必要。



▲出前事業の様子



▲マナーアップシール  
～トイレマナーの習得や明るい雰囲気の演出～

### 【整備事例】



### ■実施校

1. 岩手県・遠野市立土淵小学校
2. 宮城県・仙台市立東六番丁小学校
3. 東京都・目黒区立向原小学校
4. 静岡県・富士宮市立東小学校
5. 岐阜県・高山市立久々野小学校
6. 愛知県・一宮市立今伊勢小学校
7. 京都府・京都市立洛央小学校
8. 兵庫県・神戸市立菅の台小学校
9. 愛媛県・松山市立さくら小学校
10. 鳥取県・倉吉市立西郷小学校
11. 福岡県・直方市立直方南小学校
12. 鹿児島県・鹿児島市立中山小学校
13. 神奈川県・川崎市立旭町小学校

## 専門業者によるメンテナンス等 (各地の教育委員会、学校での取組)

床面の水垢・黒ずみ対策やにおいの除去等に関しては、適切なメンテナンスで対応することも有効。

### 【においの発生源とメンテナンスの例】

- 床面の尿石・黒ずみ・・・メタクリル樹脂コーティングやガラスコーティングを施すことによる尿石や汚れの再付着の防止。
- 小便器の尿石・・・専門業者による薬品洗浄。さらに、後付自動センサーの設置による尿石予防。
- 排水トラップの損傷・・・トラップの補修などによる臭気逆流防止対策。



床面のメタクリル樹脂コーティング



床面のガラスコーティング



# ライフサイクルにわたる適時・適切な維持管理に向けて

## 長期メンテナンス契約による予防型維持管理（大阪府箕面市教育委員会）

### 【取組概要】

- においの原因となる尿石の除去等を長期契約により定期的実施し、コストを縮減。
- 平成 22 年度に実施した域内全小中学校のトイレ改修と併せ、計画的・継続的に、常に快適性の高いレベルのトイレ環境を維持。
- 各学校の状況をよく把握した専門業者による清掃及びアドバイス。



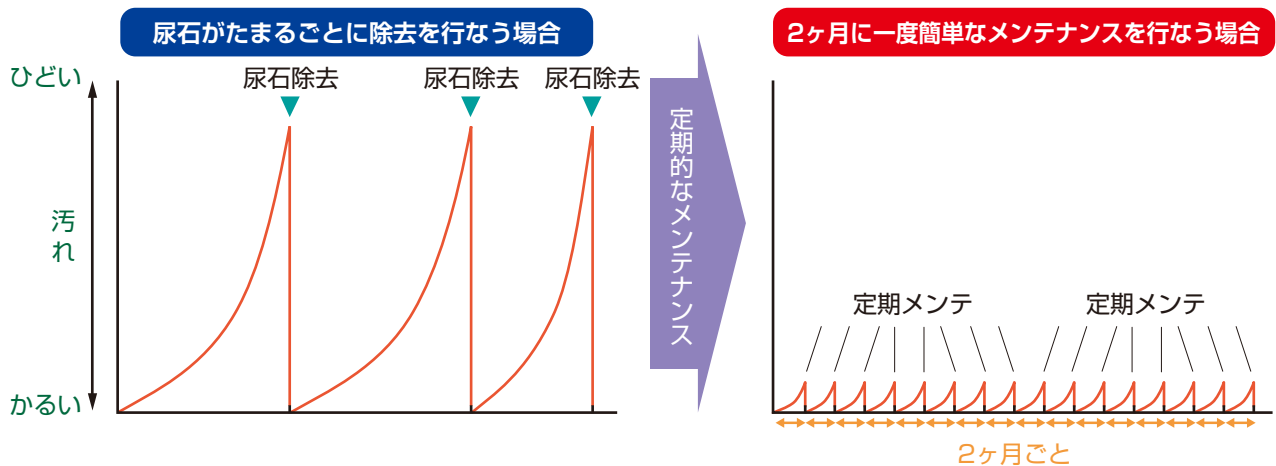
### 【委託概要】

- 現在、平成 20 年 4 月から平成 25 年 3 月までの 5 年間にわたる小中学校便所防臭管理委託契約の期間中。
- 市内 22 小中学校のうち、小中一貫校として新築・移転した 2 校(延べ 4 校)を除く、18 校を一括した委託契約。
- 2 ヶ月に 1 回の尿石除去や水垢の除去等のみならず、学校における便所の美化活動推進のために、専門業者としての適切な助言・資料の提供等を委託。

#### <業務内容>

- 尿石の除去
- つまりの解消
- 水垢・黒ずみの除去
- 金属部分（フラッシュバルブ等）の清掃
- 便器周辺（床・壁）等の洗浄
- 確認・調整
- 故障箇所の報告 等

### 定期的なメンテナンスの効果（イメージ）



#### <メリット>

汚れの蓄積が少ないうちにメンテナンスを行うことで、トータルコストの低減が図れるとともに、常に快適な状態の維持が可能。

### （参考）箕面市における学校トイレに対するその他の取組

#### <平成 22 年度に域内全小中学校のトイレ改修を実施>

- 環境への配慮（蛍光灯から LED への変更、自動水栓による節水、トイレ用擬音装置の設置）
- 床を湿式から半乾式（非常時には排水可）へ
- 和式便器の一部を洋式化

※本改修により、尿石除去の必要頻度が減り、月 1 回から 2 ヶ月に 1 回に変更

#### <「トイレの使い方」保健指導>

- トイレの改修に併せ、「つぎにつかう人、そうじをする人のきもちを考える」等を指導



▲保健指導（南小学校）

# 「学校トイレ改修事例集」作成協力者

海野 剛志	川崎市教育委員会事務局教育環境整備推進室長
加藤 篤	NPO法人日本トイレ研究所代表理事
小林 純子	設計事務所ゴンドラ代表（日本トイレ協会理事）
齋藤 登	葛飾区教育委員会施設課長
◎長澤 悟	東洋大学理工学部教授
松本 心一	世田谷区立緑丘中学校校長
村上八千世	アクトウェア研究所代表

<◎ 主査>

(特別協力者)

新保 幸一 国立教育政策研究所文教施設研究センター長

(オブザーバー)

大臣官房文教施設企画部施設助成課  
初等中等教育局児童生徒課  
スポーツ・青少年局学校健康教育課

(事務局)

大臣官房文教施設企画部施設企画課

## column ～改修仕様の検討～

### ☆洋式or和式

従来、学校トイレは、大便器のほとんどが和式となっている。一方、近年、各家庭や商業施設等において洋式化も進んできている。

学校トイレについて、アンケートをとると洋式化を望む声も聞かれ、改修にあわせ和式と洋式の設置比率が見直されてきている。その比率をどのように設定していくかは、一つの検討課題とされている。

便器については、学年が上がるにつれ、人の座った便座に座ることに抵抗を感じるという強い声も聞かれたり、和式の使い方を学校において学ばせるべきとの考えも存在したりする。また、怪我をしていてしゃがめないのが洋式が必要な利用者もいる。

学校施設は、学校開放などにより、学内外の多くの人々が利用することに配慮することも必要である。改修時の和式と洋式の設置比率については、それぞれの特徴を考慮し、利用者の声をよく聞くとともに、どう運用していくかなどを十分検討した上で、各設置者・学校において、適切に決定していくことが望まれる。

### ☆乾式or湿式

従来の学校トイレは、水を流して清掃できる湿式の床が一般的であるが、改修にあたって乾式化する学校も増えている。

乾式の床は、清掃の水が残らないので清潔感があるという声が聞かれる。一方で、湿式の床は、特に便器外排泄や嘔吐の際に水で流せる利点があるとの声も聞かれる。

いずれの方式の床であっても、それぞれ適した清掃方法があり、それらの特徴をよく理解し、必要に応じ専門業者のアドバイスを受けつつ、適切な清掃を行うことが必要である。改修の際は、清掃方法を理解した上で、湿式・乾式を選択することが必要である。

なお、通常時は乾式とし、特に汚れた場合や汚れやすい部分は、水を流して洗えるように計画することも有効である。和便器周りのみ水で流せるように防水仕上げとして排水溝を設けたり、乾式部分との間に排水用の溝を設けたりするなどが考えられる。

きれいに保とうと  
心がけるようになった。



きれいで、明るくて、楽しい。

とにかくうれしい。



明るくなった。

においがなくなった。

のぞかれる心配がなくなり、  
落ち着ける。

掃除をする意欲が  
わいてくる。



自分たちが考えたトイレで、  
愛着がわく。

自慢できる。

一人で行ける。

普通に入りやすくなった。

きれいなトイレを  
大事に使っていきたい。





文部科学省

